第六章　工事完成部分の管理

濁水溪を水源とする北港溪以北の區域斗六虎尾及北港の三郡に跨る五萬二千餘甲は工事完成部分に對し大正十三年より順次灌漑を開始し昭和二年を以て大部分終了せり卽ち大正十三年は濁幹線導水路より新虎尾溪に分水し同溪下流に於て引水する新虎尾溪別線區域約五千甲に其の翌十四年は濁幹線に沿ひたる斗六虎尾北港の三郡下に跨る約四千甲に其の翌十五年は虎尾北港兩郡下約一萬七千甲に而して昭和二年は北港郡下を主とし虎尾郡の一部と共に一萬八千甲に灌漑を開始し更に同年工事完成の豫定地にして工事未了の爲め昭和三年灌漑を開始したる約二千甲を加へ昭和四年に於ては灌漑開始面積合計約四萬六千甲に及べり。

灌漑開始前後の收穫比較の實例及北港溪以北に於ける集團耕作狀況を示せば左の如し。

灌漑開始前後の收穫比較の實例

崙背庄五塊厝

區分		區域內面積	總收穫 數量	總收穫 價格	同上一甲當
新埤	水稻	—	三四六、一六四 九八石	一四一、二〇円	—
	甘蔗	—		一五九、三五	—

嵩背庄大有

埤圳新設前						埤圳新設後												前設
						大正十五年						昭和二年						
水甘雜計						水甘雜計						水甘雜計						雜計
稻蔗作						稻蔗作						稻蔗作						作
四七三・九五九	甲					五三一・三七〇						二〇四・一三一						二三一・五三〇	甲
一七二・九四九	石	七				四五九・一六一〇						二三五・三四〇						六九七
一二六・九四三	斤					一二一・三一〇						二・八七七・九〇						一・五二一
一・七一〇・八〇	円					三一・七三二・一〇						一〇〇・三六八・八〇						四四〇〇・七七
五・八三二・七六						二一・三一・四五						一一・六一六・五六						七四〇・三一
四・九六三・五九						一〇四・一二〇・三五						四九・一四〇・三三						二六・五六七・三八
一・九四六・一五						五・三一〇・五三						一九・一六三・〇六						一・六三・〇六
二五・〇二	円					九六・三三						二三〇・一四						二四・八四

嵩背庄阿勸

埤圳新設前						埤圳新設後												埤
						大正十五年						昭和二年						十正大
水甘雜計						水甘雜計						水甘雜計						雜甘水
稻蔗作						稻蔗作						稻蔗作						作蔗稻
四七三・九五九	甲					五三一・三七〇						五七一・三七〇						
一三三・六九八・三四〇	斤					二一〇・四五九・一六一〇						三・八六〇・五三七・五三〇						一・八三一・三七八・一九〇
一・七一〇・八〇	円					三一・七三二・一〇						五五・八七一・〇〇						二六・三八〇・八〇
七・二七八・一三						二一・三一・四五						二四・七三六・六四						一・七三九・六七
三・二六一・六八						一〇四・一二〇・三五						二・八六三・七三						一四・二九・六三
二五・八七	円					六・三三						九三・四三・三七						
												一六三・五九						
												一四二・六八						

崙背庄羅厝

埤圳新設前	大正五年 水稻	大正五年 甘蔗	大正五年 雜作	大正五年 計	昭和二年 水稻	昭和二年 甘蔗	昭和二年 雜作	昭和二年 計	差引增收
新設	四九五・一〇四九甲	一三二石	一八六四〇円	一〇五・六九	一七六・五八	一五五・七八四・八九	一四六・三三・七四	九五・六六八・三五	八三・四〇六・五五
後設		七〇六九・九〇六斤	三三五・一五七	一七・九二一・九六	一五・七二・八四一	五五・一〇九・二〇	一四・六三・七四	四五・六二八・四一	八四・五〇
計	四九五・一〇四九	一三二石	一八六四〇円	一〇五・六九	一七六・五八	五五・一〇九・二〇	一四・六三・七四	九五・六六八・三五	八三・四〇六・五五
作蔗		七〇六九・九〇六斤	三三五・一五七	一七・九二一・九六	一五・七二・八四一	五五・一〇九・二〇	一四・六三・七四	四五・六二八・四一	八四・五〇
稻									
差引增收	四七七・〇一〇一				五四・七三二				

崙背庄施厝寮

埤圳新設前	大正五年 水稻	大正五年 甘蔗	大正五年 雜作	大正五年 計	昭和二年 水稻	昭和二年 甘蔗	昭和二年 雜作	昭和二年 計	差引增收
新設	三三四・四四九五甲	一三三石	三三四〇・八〇円	一九・一五一・〇〇	三七・三七円				一〇三・九四
後設		一二五・三一三斤	五五・〇四四	一二・九九〇・一三					一〇一・八〇
計	三三四・四四九五	一三三石	三三四〇・八〇円	一九・一五一・〇〇	三七・三七円				一〇三・九四
作蔗		一二五・三一三斤	五五・〇四四	一二・九九〇・一三					一〇一・八〇
稻			八・六二五・六八	四七・九六九・七四					
差引增收	三四四・六一四			五五・四七一・八二					

崙背庄施厝寮

埤圳新設前	大正五年 水稻	大正五年 甘蔗	大正五年 雜作	大正五年 計	昭和二年 水稻	昭和二年 甘蔗	昭和二年 雜作	昭和二年 計	差引增收
後設	四七六・九〇〇〇	一七二〇一三〇	七九・九〇三・〇六	三四・三一七・七七	一四四・八六四・〇四	九二・五三四・一〇	三〇二・七六	一九四・〇四	
計	四七六・九〇〇〇	一七二〇一三〇	七九・九〇三・〇六	三四・三一七・七七	一四四・八六四・〇四	九二・五三四・一〇	三〇二・七六	一九四・〇四	
作蔗									
稻									
差引增收									

嵜背庄嵜背

年	差引增收					
		埤圳新設前	水甘雜計	稻	三〇八石	四四五五・二〇円
			蔗	二七三九・四四二斤	二一二〇・四三	
			作	六〇二・八八五四甲	二〇九六二・八八	
					三七九九五一	六三・〇三円
		埤圳新設後	大正十五年	水甘雜計	一六七一	二四〇六二・四〇
				蔗	八八四四・二一〇	四〇六八二・九五
				作	五八四・八二四五	三七七二九・八三
				差引增收		一〇二四七五・一八
						六四四七五・六七
			昭和二年	水甘雜計	三〇五一	四三九三四〇
				蔗	一四一〇二・一〇〇	六五三三九・六六
				作	五八四九四〇四	四四三六四五〇
				差引增收		一五三六八五六
						一二五六九〇五
						一九七六九

備考

一、本表ハ大正十三年灌漑ヲ開始シタル新虎尾溪別組灌漑地中大字全部區域内ニ包容セラレタルモノニ就キ調査シタリ

二、埤圳新設前ノ收穫ハ自大正六年至同十年五箇年間ニ於ケル街庄統計ノ平均ナリ隨テ之ニ對スル面積モ民有地ハ荒地ヲ除キ國庫地(官租地)ハ非賦耕地ヲ除キタル自大正六年至同十年五箇年平均ノ土地臺帳面甲數ナリ

三、埤圳新設後ノ收穫ハ各其ノ年ノ街庄統計ニシテ之ニ對スル面積ハ民有地ハ荒地ヲ除キ國庫地(官租地)ハ非賦耕地ヲ除キタル同年一月一日現在ノ土地臺帳面甲數ナリ

四、收穫物價格ハ比較上ノ便宜ニ依リ埤圳新設前後共土地經濟調査ノ價格(自大正五年至同十年六箇年平均物價)ニ依リ計算セリ

元長庄

區分		區域内面積	總收穫 數量	總收穫 價格	同上一甲當
埤圳新設前	水甘雜計				
	稻		二三三石	三三三六〇〇円	
	蔗		一三一五七九三〇斤	六〇五〇二八四八	
	作	六二七〇二三三〇甲		一四五六五一二六	
				七八四〇二五七四	三五〇〇円
埤圳新設後 昭和二年	水甘雜計				
	稻		一二三〇	一九二六七一〇〇	
	蔗		二二八九二四四七〇	六〇六八五二五八	
	作			一九六八〇七六三	
	差引增收	六二四二一〇一五		九九六三三二一九	
				二二三三六四五	一五九六二
					三四五七

| 設後 | | |

（昭和四年八月末現在）

區分	作物名	大正十三年灌漑開始地 作付面積	歩合	大正十四年灌漑開始地 作付面積	歩合	大正十五年灌漑開始地 作付面積	歩合	昭和一年灌漑開始地 作付面積	歩合	昭和二年灌漑開始地 作付面積	歩合	昭和四年灌漑開始地 作付面積	歩合
甘蔗水輪作用番水區	甘蔗	八四二・七〇甲	五一・二九%	四九七・五六甲	三〇・七六%	二、三三二・二四甲	四四・九一%	一、九六一・一三甲	三三・〇八%	五九二・七七甲	六・九一%	一九六・四〇甲	四〇・五八%
	稻	四九・二七	三・〇〇	二、九七九	一・三五八	三三五・二一	六・四五	一一三・三〇	一・九一	一三二・八	一・五五	一九四	四・〇一
	雜作	七五一・二四	四五・七一	九〇〇・五四	五五・六六	二、三五・五七	四八・六四	三、八五・二〇	六五・〇一	七八五・三三	九一・五四	二六・八二	五五・四一
	計	一、六四三・一一	—	一、六七一・八九	—	五、一九二・三三	—	五、九七六・六一	—	八九七・八八	—	四八四〇	—
甘蔗水輪作用番水區	甘蔗	一、二七二・二七	一〇・九九	二、七〇一・〇〇	一七・二五	一、三七二・二五	二六・四四	一、四〇三・三一	二四・六〇	一、四九三・九九	二五・五七	六七・八四	九・六九
	稻	一、〇二六・六四	六五・六三	一、〇三五・六八	六五・四五	二、三三五・六九	四二・八九	二、〇六〇・六九	三六・三〇	二一三・五一	六・四七	二五三・四八	六・〇四
	雜作	三三〇・四七	二三・六八	二七二・七一	一七・二〇	一、五九一・二五	三〇・六七	二、三三〇・二四	三九・一〇	六四〇・一八	六七・〇〇	二五・六五	六一・九八
	計	一、五六四・三八	—	一、五八二・九	—	五、一八九・四九	—	五、七〇四・三四	—	九五五・五〇	—	四一・三八	—
無給水輪番區	甘蔗	二九七・二一	一八・二五	三三八・八五	一九・八五	一、四四九・三一	二九・三七	一四九三・九九	二五・五七	五八六・七	六・一六	六・七九	一三・〇五
	水稻	三三・五〇	二・〇六	二三八・六一	一三・九八	二八二・三四	五・五三	一一三・五一	一・九三	九五・五	一・〇〇	八・〇四	一五・四五
	雜作	一、二九八・八六	七九・六九	一、二九四三	六六・一七	三、三七三・三四	六六・一〇	四二三六・九九	七一・五〇	八八四・三三	九二・八四	三七・二〇	七一・五〇
	計	一、六二八・八六	—	一、七〇八・八九	—	五、一〇九・〇〇	—	五、八四三・四九	—	九五二・五四	—	五二・〇三	—

備考

一、雜作地中ニハ幾分休閑地ヲ含ムモ全部雜作ヲナセルモノト看做ス

一、各區ノ總面積ハ灌漑計畫面積ニシテ維持費徵收面積ト一致セズ

一、甘蔗作用水輪番區及無給水輪番區ニ於ケル水稻作ハ主トシテ井戸、埤池等ノ水源ニ依ル

第七章　組合の機關及び業務組織

第一節　組合の機關

本組合は組合規約の定むる所に依りて組合會を置き、組合員中より組合員に於て選擧したる議員並本圳利害關係土地百甲以上の所有權又は質權を有する者及管理者に於て本組合の事業に重大なる利害關係ありと認めたる者を以て組織し更に組合會議員中より議員の互選及管理者指名の常務委員を置きたり。

本組合創立以來組合會を開催せること通常臨時を通じて二十有五回、常務委員會を開きたること四回にして組合會議に上程議決せる重要議案は九十餘件の多きに上り時に多少の曲折無きにあらざりしと雖常に和衷協同勵精克く協賛の任を竭し組合事業遂行上に些の支障澁滯を來すが如きこと無かりき。

因に本組合創立當時及本圳新設工事竣功當時に於ける組合會議員は左の如し。

組合創立當時に於ける組合會議員

規約第五條第一項第一號該當議員

臺南州新豐郡仁德庄　黃　澤　　臺南州臺南市開山町　辛　西　准
同　同　歸仁庄　楊　金　龍　　同　同　港　町　謝　群　我
同　臺南市花園町　林　世　鴻　　同　同　新化郡新化街　林　邦　英
　　同　同　新市庄　江　春　榮